

蕃人に由つて創作された祭事曆

前 略

小包便にて御送附申上げました彫刻は當地山岳展覽會に陳列されました蕃人曆とも云ふべき一種の蕃人の記録にて大變めづらしく考へられましたので複製し御送附申上げた次第であります。別に天文の上に價值あるものでもありませんが、

別紙にその來歴及び解説を記しておきましたから御覽を願ひます。

昭和五年六月二十二日

臺 中 同 好 會 員 松 本 武 男

山中曆日無しと云ふが山住居の蕃人には由來曆などは絶對になく、日を教へるに麻繩の如きものを結んでその數で知り、或は月の満虧に依つて測るのみである。所が臺中洲新高郡カネトワン社の頭目タロムマグラバンは我々の祖先が年中行事として毎年實施して來た蕃社の重要行事が動ともすれば怠り勝となり、竟にはそれが全く廢絶の日が來るであらうと心配し、この重要行事を子々孫々に誤りなく傳へんには何等か記録を作り置かねばならぬと考へ、父親ラオンマグラバンの記憶に基いて自ら工夫を凝らし苦心の結果創作したのがこの蕃人曆とも云ふべき一種の記録である。

この現品は長さ三尺、幅三寸五分位の一枚板に彫り附けたもので、タロムマグラバンが十數年前自ら彫刻したのだが同人は大正十二年死亡して現品は其の實兄たる現戸主ガイスルマグラバンが家寶として秘藏してゐる。

この記録創作に就いて附近蕃人は曰く、「我々蕃人間には古來未だ曾つて斯の如き記録を作る者が無かつた。従てタロムのこの創作は蕃人間に於て全く類例のないものであるが、こんなものを考へて作つたから彼は若死をしたのである」と。

1. 彫刻の説明



の切込みは一日を示す



は平鍋にて粟を煮、酒を造る形



は薪取りを禁ずる日



は平き籠（蕃稱カボン）に里芋を入れる形



はカボンに粟を入れる形



は出獵を示す



は鍬の形にして開墾又は耕作を意味す



は畑の開墾



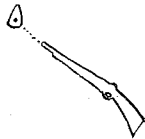
はカボンの中にて粟を算ふる形



は球と獨樂



は水溜に萱を立てた形



は鹿の耳を銃にて打つ形



は豚



は榛の木



は不明なり



は畑



は不明であるが豚の毛を焼く意味らしい

2. 彫刻の解説

刻面の縦線は行事の区切りで一行事に少きは二日長きは十数日に至るものがある。刻面は左方より右方に及ぶものであるがその説明を下に掲ぐ。

A は開墾祭（蕃稱モカネヤンモコマ）にて五日間につ亘て行はる事。

▲第一日をラクノと稱し開墾をなすにあたり主祭者が毎夜夢占を試み吉夢を見たる翌日をラクノとして其日より開墾を始め糯粟を水に漬け蕃酒醸造の準備をなす。

▲第二日をカボラスと稱し酒を造る。

▲第三日は休み。

▲第四日はカコンモ（畑を作る意）と稱し早朝鹿の蹄にて畑を掘る眞似をしつゝ粟や穀物の豊穰を祈る。

▲第五日をロクスタンガフ（鋏を縛るの意）と稱し昔祖先が石鋏を用ひし因縁から現今使用せる鋏を木に縛り附け石鋏を作りたる態をなす。

B は粟蔭祭（ミンピナン）と稱し、舊正月頃十五日間に亘り行はるゝものである。

▲第一日ラクノと稱し主祭者が毎夜夢占を爲し吉夢を得た翌日を以て第一日として祭事を行ふ。

▲第二日シラカイタナン（榛の木を取るの意）と稱し、開墾せんとする土地の一小部分を美しく伐採し其處にある榛の木を持ち去る。

▲第三日マコシバカイタナン（榛を分配するの意、前日持ち歸つた榛の木をこの祭に加入した者に分配する。

▲第四日テンバネヘリと稱し檜を三本地上に立て其の中央にラッコ（石鱈代用となる木の實）を置き粟作に暴風雨の被害なき様祈る。

▲第五日キナバークとて粟餅を搗く。

▲第六日マシニコタイ（里芋を轉がす意）里芋をカボンと稱する平たき籠に入れ振り轉がす。

▲第七日マウンメテラスと稱しカボンの中にて粟の實を穂より揉み落すが此日から出獵する。

▲第八日ブラコ（粟蔭初め）糯粟を水に漬け酒造の準備をす。

▲第九日酒造にて第七日に取りし粟の一部を以て酒を作る。

▲第十日マカシカシと稱し粟を蔭きて鋏にて搔き廻す。

▲第十一日バナヒンセクと謂ひ此日獵より歸りて飲酒す。

▲第十二日シヤツボと稱し粟蒔終了。

▲第十三日イサンカボと稱し圍爐裡の灰を取り捨てる。

▲第十四日粟蒔を終つたので薪の採取を禁ずる。

▲第十五日イサンルスアナンと稱し愈々粟蒔祭を終る。

Cは粟收穫祭（マルシヨブシヨブ）にして二日間である。

▲第一日をマシツボルイコル（穂を算ふる意）と稱し粟穂一把より一本宛
抜き取り置きたる穂を算へる。

▲第二日は休にしてこの祭の後、蕃薯畑の開墾に従事する。

Dは粟の除草祭（ミンコラオと稱す）にして八日間に亘る。

▲第一日をミンコラオと稱し粟の除草を始め球を造るべき桑の皮を剥ぎ來
り、酒を造る。

▲第二日モシヤウルと稱し球と獨樂とを弄び飲酒す。

▲第三日粟の除草の眞似をする。

▲第四日休み。

▲第五日粟の除草の眞似をする。

▲第六日マシブヅクと稱し萱を水溜に浸して粟の發育の良好を祈る。

▲第七日粟の除草を實行する。

▲第八日休み。此後は粟の除草に従事する。

Eは耳打ち祭で十二日間に亘る。

▲第一日をボシカイブと稱し耳打祭の始めて此日から出獵する。

▲第二日マレスアンと稱し薪取を禁ずる。

▲第三日ミセブセブと稱し萱と藜と一緒に植えて豚の毛を焼き作物が豚の
美味しそうな匂を嗅いですぐ成長する様にと祈る。

▲第四日は休み。

▲第五日酒を造る。

▲第六日カバトシヤンと稱し出獵者歸る。

▲第七日マナクタイガと稱し早朝鐵砲や弓矢を以て鹿の耳を打ち後飲酒す。

▲第八日マハラクラボスと稱し指にて乳兒に酒を嘗めさせ母は酒を飲む。

▲第九日ピシクツコと稱し本年も獵獲物が澤山あり穀物又豊作なる事を祈
つて酒を飲む。

▲第十日前日と同様。

▲第十一日アイサンバネトルと稱し木斛を頭に挿し飾りて威勢を示す。

▲第十二日マセイヤ（負けるなと云ふ意）と稱し萱を以て粟畑の上を掃く

眞似をし蟲害を除かんとす。即ち蟲拂ひをする。

F は豊作祭（ミシコラ）にして十六日間に亘り甘物を禁食する。

- ▲第一日ブントンコルと稱しマカウ（山椒の如き香のある木）と根こぎにした粟を家の入口及天井の明窓より差出しつ、穀物の豊作を祈る。
- ▲第二日マシヨムシヨム（粟を拜む意）と稱し子豚を殺して主祭者一人のみ之を食ふのだが主祭者は第六日まで屋外に出る事を禁せらる。
- ▲第三日休み。
- ▲第四日酒造り。
- ▲第五日ラムラムカイナと稱し粟刈鎌を磨ぐ。
- ▲第六日コルツと稱し豚を屠つて飲酒す。但し第二日に屠つた子豚の肉を残し置き此日一緒に喰ふが主祭者は本日より屋外に出る事を許される。又此日薪取を禁ずる。
- ▲第七日テンサンと稱して糯粟採收を始めるが粟採り中は大便を禁じ若之を爲せば粟採りを中止して歸宅せねばならぬ。
- ▲第八日糯粟採取初めにて此日より出獵す。
- ▲第九日新粟にて酒を作る。
- ▲第十日ムラレンと稱し粟を桶の如きものに入れ豚の骨を振りつ、收穫の大なるを祈る。此日薪取を禁ず。
- ▲第十一日ブルタルと稱し俗にムクロジと稱する實（苦いもの）を嘗める其意は「鳥獸さへもこの實は喰はぬ我々も亦漫りに喰ふべからず。この香を嗅ぐだけでも腹が滿つる」のであると云ふ。此日出獵者歸る。
- ▲第十二日休み。
- ▲第十三日ランラクビンと稱し酒を造る。
- ▲第十四日休み。
- ▲十五日シラテラスと稱し粟收穫に従事。

G は首飾祭（マシカウルス）であるがそれは九日間に亘り尙この期間甘い物を喰ふ事を禁じて居る。

- ▲第一日マルナイノクと稱して新らしい着物を着る。
- ▲第二日マシカウルスで其年中に生れた子供に首飾を掛けてやりその子供に名を附ける酒を造る。
- ▲第三日タルタルと稱し第一日に着た衣類を脱して着替へる。
- ▲第四日ムラレントラスと稱し粟を屋内に積み重ねて飲酒す。
- ▲第五日マラククラツコと稱しムクロの實を嘗めて粟を大切にせよと戒

める。

▲第六日休み。

▲第七日開墾の眞似を爲し酒を造る。

▲第八日休み。

▲第九日アンシンモクと稱して酒を飲む。これにて祭事終り此後は甘き物を食ふも差支へなく之より蕃薯畑の開墾などに従事す。

H は禪取祭 (マビラオ) でこれは五日間の行事である。

▲第一日をマビラオと稱してムササビ獵に出る。又男は榛の木に登つてホーホーハイイテツテ (肉よ來いの意) と呼ぶ。

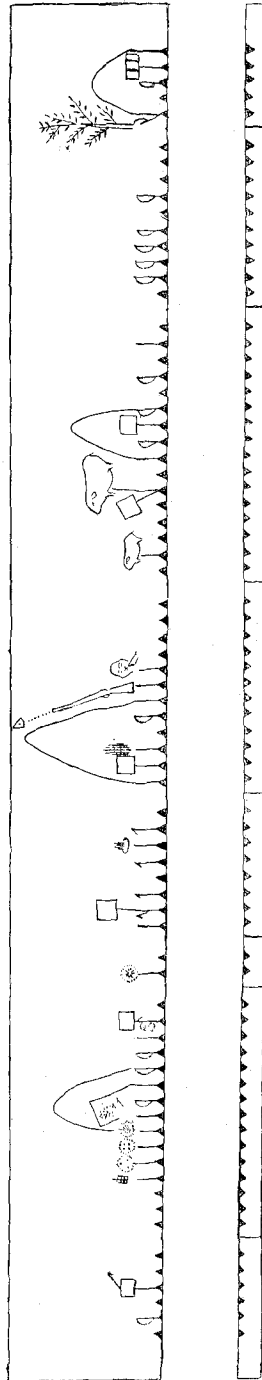
▲第二日シラタイと稱し里芋を澤山煮て喰ふが、内二個の皮を剥ぎ稗を振りかけて主祭者が喰ふ。尙二個を取つて別に收藏するがこれは澤山あつて喰ひ切れぬ意である。

▲第三日テンカツシャウと稱し。里芋の莖にて垣を造り中に火燧石を置き「この里芋は斯の如く堅くて喰へないよ」と示し、鳥獸の害食を彼らぬ様に祈る。

▲第四日テンピシメンと稱し里芋の親子二つを並べて一刀の下に切る。

▲第五日ミシャウハバルと稱し第一日にムササビ獵に出た者が歸つて來て酒を飲む。

(完)



臺灣蕃人の作った祭事曆 (三分の一に縮寫)